

知的財産教育研究・専門職大学院協議会

夏期知的財産連合英語セミナー2015

-「特許実務家コース」-

日 程： 2015年8月31日～9月2日
会 場： 東京理科大学（ポルタ神楽坂・5階）

【主催】 知的財産教育研究・専門職大学院協議会（JAUIP）

「実務家コース」開講のご案内

- 当協議会は、すべて英語による夏期知的財産連合セミナーを毎年開催しております。これはわが国の知財系大学院が協力して、アジア・新興国の知的財産高度専門人材の育成を推進するために開催するもので、今年で4回目の開催となります。これまでのセミナーは学生向けのプログラム内容でしたが、今年は知財実務に直結した「実務家コース」を開講いたします。
- 「実務家コース」では、日米の特許性要件、出願手続、紛争解決などの特許実務に必須の事項を、日比較法的に検討します。また、グループワークでは参加者に共通課題に取り組んでいただきます。知財分野の一線で活躍する日米の実務家・教員が、グローバル化した知財実務に対応できるプロフェッショナルの育成を支援します。
- 講義・教材すべてが英語で行われるこのプログラムは、国際派をめざす特許実務者にとって英語力を鍛える絶好の機会になると思います。なお、講義およびグループワークは実務に直結したコンテンツとなっていますので、3年以上の知財分野での実務経験をもつ人が参加できます。

＜コースの案内＞

- 期日： 2015年8月31日（月） - 9月 2日（水）※全日程参加要
- 会場： 東京理科大学・ポルタ神楽坂5階（P502教室）
- 費用： 70,000円 （定員40名）※PPTスライドが利用可能なノートPCを持参してください
- 言語： 英語 （問い合わせは、summer-seminar@jauip.org）
- 担当： 藤野仁三（東京理科大学専門職大学院嘱託教授）
加藤 浩（日本大学専門職大学院教授）

参加申込み

- 参加希望者は、参加申込書および略歴書（英文1枚以内）をJAUIP事務局まで送付してください。メール添付での申込みも受け付けます。
 - JAUIP事務局e-mail: summer-seminar@jauip.org
- 申込書の受領後、事務局からご連絡いたします。
- 受講料は当日現金払い（希望者は銀行振込みも可）をお願いいたします。なお、参加要件を満たさない申込者の場合には参加をお断りすることもありますのでご了承ください。

コース・スケジュール

	8月31日(月)	9月1日(火)	9月2日(水)
	受講受付 (9:30 - 10:00)	受講受付 (9:30 - 10:00)	受講受付 (9:30 - 10:00)
午前	<講義> 特許制度ハーモナイゼーション 現状と今後 (10:00 - 12:00) 加藤 浩 (日本大学)	<講義> 日米の特許審査実務 (10:00 - 12:00) ー日本の視点 市川信孝 (弁理士) ー米国の視点 Kevin Kunzendorf (弁護士)	<講義> 日米の紛争解決 (10:00 - 12:00) ー日本の視点 村田真一 (弁護士) ー米国の視点 吉田直樹 (弁護士)
昼休み	12:00～13:30	12:00～13:30	12:00～13:30
午後	<講義> 日米の特許性要件 (13:30 - 15:30) ー日本の視点 横田修孝 (弁理士) ー米国の視点 Maxwell A. Fox (弁護士)	<講義> 翻訳に起因する特許問題 (13:30 - 15:30) ー日本の視点 奥山尚一 (弁理士) ー米国の視点 James Hughes (翻訳家)	<ロールプレイ> 特許ライセンス模擬交渉 (13:30 - 15:30) 荻野 誠 (東京理科大学) 原嶋克巳 (太陽国際特許事務所) 牧 虎彦 (月島機械) 原 豊 (アドバンストソフトウェアリアルズ)
	<グループワーク> 事例研究(スマホ特許侵害事件) (16:00 - 18:00) 藤野仁三 (東京理科大学)	<グループワーク> 特許クレームドラフティング (16:00 - 18:00) 奥山尚一 (弁理士) 黒田 薫 (弁護士・弁理士) 小西 恵 (弁理士)	<グループワーク> 和解契約書条項ドラフティング (16:00 - 18:00) Stuart Beraha (弁護士) Louise Stoup (弁護士)
	懇親会 (18:30-20:30)	—	修了式 (18:00 - 18:30)

実務家コース : Day 1

- **講義「特許制度とハーモナイゼーション 現状と今後」**
- WIPOにおける特許制度の国際調和に向けた最近の取り組みを説明し、主要国の特許法改正の動きについて考察する。また、実務面における国際調和として、特許審査ハイウェイのほか、日米欧中韓などの主要国における最近の協力を説明し、主要国における実務上の課題について検討する。
- **講義「日米の特許性要件」**
- 日本特許法は特許取得の際に実質的な5つの特許性要件を満たすことを要求している。これらの要件は5大特許庁間ではほぼハーモナイズされたと考えられるが、ハーモナイズされていない条項や実務も依然として残っている。本講義では日本の特許要件を概観するとともに日本特許法に特徴的な条項や実務について解説する。次の講義との関係から日本で特許可能な主題についても解説する予定である。

- **グループワーク**
- **「アップル対サムスン事件の損害賠償額算定方法を分析する」**
- このセミナーでは、受講者を幾つかのグループに分け、同じグループメンバーがセミナー期間中、共同作業を行います。初日のグループワークでは、特許侵害事件での損害賠償額の算定方法を検討します。グループワークに入る前に、講師が「アップル対サムスン事件」の知財高裁判決を検討します。それを踏まえて、各グループ毎に、合理的な損害賠償額とは何かを考えてもらいます。

実務家コース : Day 2

➤ 講義「日米の特許審査実務」

➤ 特許審査実務の要点（日米の視点）

- 本講義では、PCTルートとパリ条約ルートによる外国特許出願およびその要件を検討する。そして、出願人と審査官との間の面談プロセスについて検討し、審査官面談の影響について考える。また、特許審査の過程で特許審査官が提起する典型的な課題についても検討する。

➤ 講義「翻訳に起因する特許問題」

特許明細書とクレームの翻訳は非常に難しい。特に特許クレームにおける文法や用語は、普通の英語、日本語、その他の言語と異なる。特許とクレームの表現における特徴的な点を英語と日本語の側面から解説して、特許翻訳の専門性の重要さを明らかにしてみたい。

➤ グループワーク「特許クレームドラフティング」

特許保護の範囲は特許のクレームによって決まる。特許クレームの作成は一つの特別な技術で、習得するには3年から5年かかると言われている。画家のデッサンに似ている。構造主義だろうと抽象派だろうと伝統的なデッサンが基本である。特許訴訟の専門家や特許管理者になろうとするのでも、ライセンスの専門家、もちろん出願手続の専門家になる上でも、クレーム作成の技能は必須である。そのハードルになるのは、特許、特に特許クレームに使われる文法、守るべき決まり、用語が普通のものとは全く異なっている点である。この不思議な特許語の世界をのぞき見て、グループに分かれて実際の練習をしてみる。

実務家コース : Day 3

➤ 講義「日米の紛争解決」

- 日米の特許紛争処理体系はよく発達し、世界でも先進的なシステムとして知られています。とは言え、日本の特許訴訟には特異な特徴もあり、その幾つかは米国と大きく異なっています。この講義では、日本と米国での特許訴訟手続の要点を解説し、両国の訴訟手続上の特徴を比較法的に説明します。また、関税法に基づく水際手続きや代替的紛争処理（ADR）についても取りあげます。

➤ ロールプレイ

➤ 「特許ライセンス交渉」

- 大手企業間の仮想の特許ライセンス交渉を実演します。ライセンス料を下げるためにライセンシーは許諾特許の価値を低く算定し、それを正当化するために特許の弱点を攻撃します。それに対して、ライセンサーは、ライセンス条件を飲まなければ訴訟も辞さないとライセンシーにプレッシャーをかけます。この模擬交渉を通じて、特許ライセンス交渉の雰囲気疑似体験していただきます。

➤ グループワーク

➤ 「和解契約書ドラフティング」

- 三日目は、特許紛争解決手法、交渉による和解、ライセンス契約などを学びますが、このグループワークでは、各グループが特許侵害訴訟の被告との想定で、和解のための主要な契約条項を作成してもらいます。各グループには事前に仮想事案の背景を記載したファクトシートを配布します。なお、このグループワークの目的は、メンバー間での協議、契約条項作成のための共同作業、案文の発表となります。

講師プロフィール：Day 1



加藤 浩

日本大学大学院知的財産研究科教授
(弁理士/工学博士)
前職：特許庁審査官・審判官、
政策研究大学院大学助教授



Maxwell A. Fox

ロープス・グレイ東京事務所パートナー。
知的財産訴訟、特許ライセンス、知財カウンセ
リングなどの分野で技術先端企業を代理。
米国での訴訟、ITCでの行政審判、CAFCや
連邦最高裁での控訴審・上告審を担当。慶
応大ロースクールで知財コースの講義を担当。



横田 修孝

フィールズ国際特許事務所 代表パートナー
弁理士
日本弁理士会 常議員
日本弁理士会 JPAA-AIPLAプロジェクトグ
ループ・前リーダー
日本弁理士会 国際活動センター・外国情報
部米国部会・前部会長



藤野 仁三

東京理科大学イノベーション研究科知的財産
戦略専攻嘱託教授
東京大学情報理工系研究科非常勤講師、
日本知財学会会員、比較法学会会員
IP Management Experts Networkメン
バー

講師プロフィール : Day 2



市川 英彦

弁理士。アンダーソン・毛利・友常法律事務所所属。電気、電子、通信、機械、半導体、コンピュータ及びソフトウェアなどに関連する特許出願、審判事件を担当。ボーダフォン株式会社の勤務経験あり。



ケビン・クンゼンドーフ

シュグラー・マイオン事務所（本拠地ワシントンDC）のパートナー。外国人による米国特許出願を担当して10余年。その間、特許性や侵害についての鑑定、特許訴訟のコンサルティングなどに従事。弁護士実務に従事する前は、モトローラ社で日本市場向けの無線受信機的设计・検査を担当した経験がある。

講師プロフィール : Day 2



奥山 尚一

弁理士、久遠特許事務所代表
AIPPIジャパン副会長
日本弁理士会前会長
内閣府知的財産戦略本部員
FICPI主催EURO-SEAD特許作成コース
指導員



黒田 薫

弁護士（日本国・ニューヨーク州）
阿部・井窪・片山法律事務所パートナー
Kirkland & Ellis法律事務所客員弁護士
（2012年3-9月）
レーダー前連邦巡回区控訴裁判所(CAFC)
長官のインターン（2011年8月-2012年1
月）



James Hughes

曾我特許事務所所属
INTA ブリテン・アジア太平洋法実務小委員
会委員
ABAC ズーム 特許翻訳コース
ACCJ知的財産委員会前委員長



小西 恵

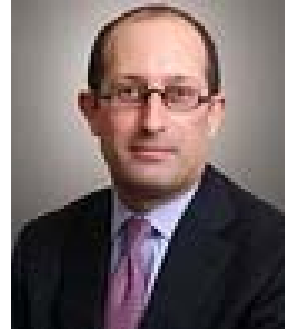
弁理士。小西永岡特許事務所パートナー、
パーフェクトトランスレーション株式会社代表
取締役。得意分野は、コンピュータ関連
（ハード・ソフト）、画像処理・通信などに関
する国内出願及び外国出願並びに中間処
理対応、明細書等の翻訳（英訳、和訳）
や交渉通訳など。

講師プロフィール : Day 3



村田真一

兼子・岩松法律事務所パートナー、弁護士
第二東京弁護士会所属、
ニューヨーク州弁護士会登録



Stuart Beraha

モリソン・フォースター（東京オフィス）
パートナー。
特許を含む技術ライセンス、コンテンツライセン
ス、技術提携などに経験豊富。M&Aにおけ
る知的財産問題にも詳しい。



吉田直樹

フィネガン・ヘンダーソン法律事務所
東京オフィス筆頭パートナー
コロンビア特別区、ニューヨーク州及び
合衆国連邦巡回控訴裁に登録、
東京第一弁護士会所属



Louise Stoupe

モリソン・フォースター（東京オフィス）
パートナー。
知的財産紛争や複雑な商業紛争処理を担
当。特に国際紛争処理が専門で、米国地
裁やITCで知的財産事件を代理している。

講師プロフィール : Day 3



荻野 誠

東京理科大学イノベーション研究科教授、
日本ライセンス協会副会長



牧 虎彦

月島機械株式会社 取締役常務執行役員、
日本ライセンス協会元副会長



原嶋 克巳

太陽国際特許事務所理事、
日本ライセンス協会前会長



原 豊

アドバンスト・ソフトマテリアルズ株式会社
代表取締役社長、
日本ライセンス協会会員

アクセス（東京理科大学 ポルタ神楽坂）

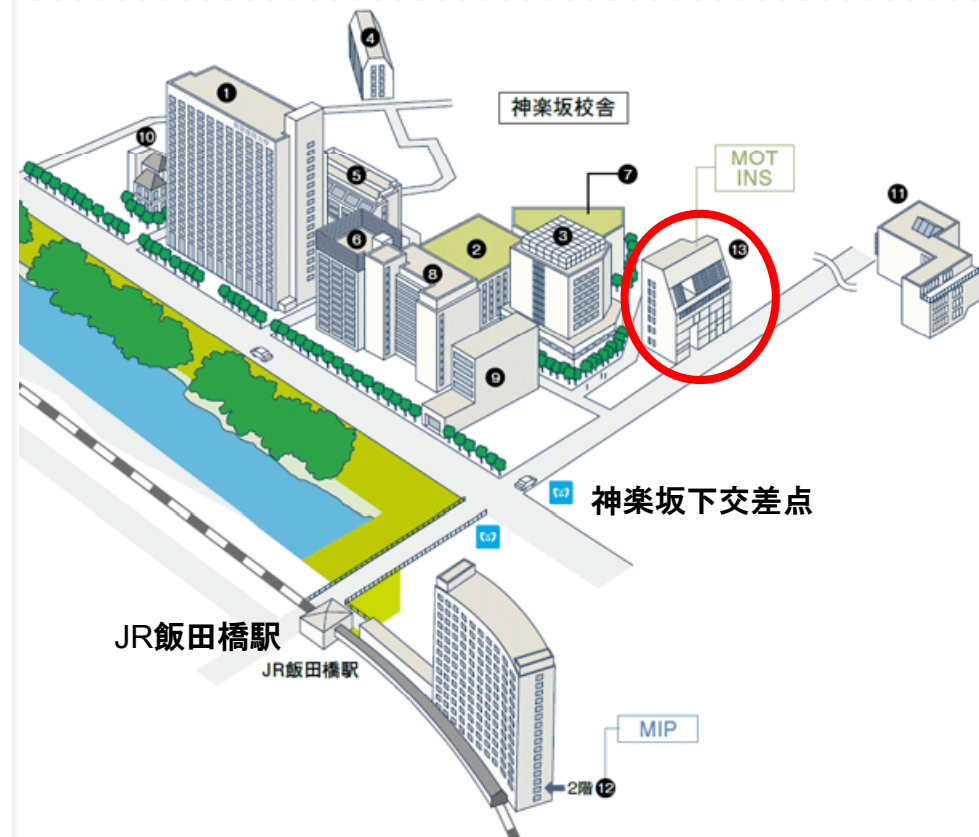
東京理科大学 ポルタ神楽坂

（東京都新宿区神楽坂2-6）

<http://most.tus.ac.jp/mot/summary/>

- ◆JR総武線、地下鉄有楽町線・東西線・南北線・大江戸線 飯田橋駅 徒歩1～3分

レストラン サイゼリヤが地下1階に入っている大きな門のような形をした建物です。門の間を入ると左側にエレベーターがあります。



お問い合わせ



- **知的財産教育研究・専門職大学院協議会**
Japan Association of Universities for Intellectual Property Education and Research (JAUIP)
- **お問い合わせ**
知的財産教育・研究専門職大学院協議会事務局
東京都千代田区飯田橋4-25-1-12
セントラルプラザ2階
東京理科大学知的財産戦略専攻内
TEL:03-5225-6338
- **セミナーに関するお問い合わせ(E-Mail)**
summer-seminar@jauip.org
- **一般的なお問い合わせ(E-Mail)**
office@jauip.org